

れてゐることによるのである。東京市の失業登録者は二萬三千人で五日か一週間に一日、仕事にありつくほどで賃銀は一日一圓三十五錢である。また同市の内職世帯数は四千七百八十七戸で平均一日十五錢の賃銀にすぎず殊に某授産所でやらせてゐる編物は十六錢の仕事が三日かかるといふのである。

斯くの如く、労働者は安い賃銀で永い時間奴隷のやうに機械にしがりつけられて働らかされ、失業者は犬猶に劣る生活を強要され飢餓のために死を待つかそれとも生活を守るために捨身となつて闘争に奮ひ起つか工つの道を進むほかなない。タンバに追ひこまれてゐるのである。

ハ、農村の窮乏は最近にはじまつたものではない、土地私有制によつて半封建的な高い小作米を地主にシボリ取られ

法財團協調會福岡出張所

てきた農民はタエズ貧乏の中に生きてきたのである。そしてこの土地私有制は昔しなからの農業経営（過少農経営）の方法による農業生産の發展を喚びとめてゐる。更らに農村は明治維新以來休むことなく工業繁榮のフミ蓋とされ、工業發展の人身御供とされてゐるのである。然も日本資本主義が青壯年時代から老衰期に入るに従つて農民のうける壓力は益々大きくなつてゐるか、最近における農民の窮乏ほどミヂメなものはない。

軍備擴張による財政インフレ政策は工業生産品と農産物との値段の差をひろめてゐる。それでは農民の生産してゐる米麥大豆等の農作物と、農村に用ひる工業商品との値段にドンナ差があるか、二十箇年間に農産物は平均一割三分の値上りであるのに、農村に用ひる工業商品は

法財團協調會福岡出張所